

コード	名 称	区分	コード	名 称
事業名	587 農業共済事務管理経費	会計	01	一般会計
		款	06	農林業費
		項	01	農業費
		目	02	農業総務費
基本 施策	99 対象外	細目	281	農業共済事務管理経費
		細々目	01	農業共済事務管理経費
行革大綱の重点事項番号				
担当部課	コード	191200	担当者	43 - 2301
	名称	農林振興課	氏名	稲森 綾子 連絡先 (内線) 333

事務事業の概要 (Plan)

対象(誰を、何を)	伊賀市・名張市広域行政事務組合農業共済事業 ※対象件数
成果(どうする)	伊賀農業共済事業の円滑な業務執行と伊賀市農業共済基金の適切な運用管理
根拠法令・要綱等	伊賀市農業共済基金の設置、管理及び処分に対する条例
開始年度	平成 年度
終了年度	平成 年度
H21 事業 内容	伊賀市・名張市広域行政事務組合農業共済事業の業務経費の負担
	伊賀市農業共済基金運用益の積立 ・市有建物の貸付収入を財源に伊賀市農業共済基金へ積立
社会情勢 の変化等	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動 指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
			農業共済事業規模点数	千円	目標 68700 実績 59415	目標 68700 実績 59415

成果 指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
							目標 実績

投入 コスト	H20 決算		H21 決算		H22 当初予算		H23 当初要求	
	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	
直接事業費計 (A)	96,869	89,204	88,652	88,652				
Aの 財源 内訳								
国庫支出金								
県支出金								
地方債								
その他	53,073	2,816	2,704	2,704			2,704	
一般財源	43,796	86,388	85,948	85,948				
事業投入人件費 (B)	0.1 人 360	0.1 人 360	0.1 人 720	0.1 人 720				
フルコスト(A)+(B)	97,229	89,564	89,372	89,372				

事務事業の評価 (Check)

	判断の基準(該当項目に○をつけてください)	備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	○
有効 性	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
	民間のサービスだけでは市場全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	
	事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業	
	【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】	
達成 度	財政状況を考慮し、事業を休止した場合、市民生活への影響が大きい事業	
	【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】	
効率 性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	
	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高	
効果 性	当初設定した計画を 100% 実施している。	【計画に遅れが生じている場合、改善策】
	予算の繰越の有無 無	【予算の繰越がある場合、繰越の種別】
効果 性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。	
	基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。	
効果 性	【事業名】	
	受益者負担を求められることができる事業である。	○
効果 性	全体コストにおける負担構成は適正である。	
	コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	財政事情を見ながら、負担金執行と基金運用のバランスをとる必要があります。
【状況】	計画のとおり進んでいる
【詳細】	
昨年度の 取組状況	伊賀市・名張市広域行政事務組合農業共済事業の業務経費の負担、伊賀市農業共済基金運用益の積立、市有建物の貸付収入を財源に伊賀市農業共済基金へ積立

今後の方向性 (Action)

担当課長氏名	服部 伊久夫
【方向性】	現状維持
【理由】	
事業の方向性	伊賀市・名張市広域行政事務組合へ派遣された農業共済事業担当市職員の人件費を市分担金として負担しており、名張市との配分も人員配置と同じく事業規模点数を根拠としており適正である。
現時点における 課題、その他	無
課題、その他に 対する改善策 (いつまでに、何 を、どうする)	無